



ユニシス研究会を通じた価値提供

ユニシス研究会は、会員数約700社から成る、会員企業のみなさまが主体のユーザー会です。日本ユニシスグループは、ユニシス研究会を通じて、企業や業界の枠を越えたさまざまな研究活動や情報交換、相互交流の場を長年にわたり提供しています。

ユニシス研究会の活動概要

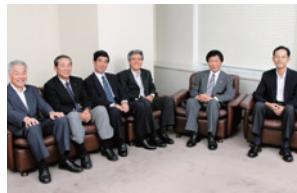
ユニシス研究会の中心である研究活動においては、経営層から担当クラスまで幅広い層のみなさまに参加いただき、経営やIT活用に関する時宜を得たテーマについて、グループ研究を実施しています。また、研究活動成果の報告書は会員企業から応募された各種論文とともにユニシス研究会の知財ポータルに登録され、会員が検索・活用できるようになっています。

相互交流の場としては、全国9支部主催によるセミナー、企業見学会などのほか、毎年秋に開催される全国フォーラムでは、著名講師による記念講演や開催地にちなんだ講演、地域見学会などが行われています。

名古屋開催となった2007年度フォーラムでは、中部地区における「モノづくり」などをテーマとしたプログラムにおいて600名を超える会員のみなさまに参加いただきました。またフォーラムに先立ち行われた中部支部幹事のみなさまによる座談会では、フォーラムの成功に向けた活発な意見交換がなされました。



2007年度全国フォーラム(名古屋にて開催)



中部支部座談会

2007年度グループ研究テーマ(抜粋)

- 競争優位のための企業力向上
- これからの情報システム部門の役割と人材育成
- グループウェアの企業情報システムとしての実態と活用
- サプライチェーンにおけるICTタグ活用

合計20テーマ(参加者数:150名)

コミュニケーション・ツールの充実

ユニシス研究会では、Webサイトや会員のみなさま向けの機関誌「こらぼれ〜しょん」を通じて、研究活動のご紹介や報告書・論文の共有、各種案内などを行っています。

また、会員のみなさまからのご要望により、全国フォーラムや活動報告会の際、遠隔地で参加が難しい場合のコミュニケーション・ツールとして、「VisMee」を導入。セミナー・発表などを自席のPCから聴講できるだけでなく、専用のマイクを使って発言・質問も行うことができる双方向型コミュニケーション・ツールとして、好評をいただいています。



「VisMee」利用風景

WEB ユニシス研究会
<http://www.yuni-ken.gr.jp/>

V OICE ユニシス研究会事務局メンバーから

お客さまと日本ユニシスグループとの橋渡し

昨年度よりユニシス研究会(ユニ研)事務局メンバーとして、各研究活動やイベントを中心に、会員企業さまのサポートや社内との「橋渡し」的な役割を担当しています。

日頃お客さまと接しているなかで常に意識していることは、お客さまの視点と日本ユニシスグループのメッセージをつなげていくこと。そのためには社内外に広くアンテナを張り巡らし、双方がめざしているものの着地点を探っていくことが重要になります。疎遠になりがちな地方のお客さまともツールを工夫するなどして積極的なコミュニケーションを心がけています。ユニ研会員のお客さまからは「ユ

ニ研の良さは参加して初めてわかる」というお声をいただきます。

この「良さ」をまだ参加していないお客さまにも知っていただけるよう、これからは新しいことにも積極的にチャレンジしていきたいと思っています。また、今まで以上に営業の人たちとも連携を取りながら、より多くのお客さまに参加していただける、魅力ある活動をめざしていきたいです。



日本ユニシス 広報部
ユニシス研究会事務局
美濃部 泰志

2007年度の研究活動を振り返って

2007年度は全国25グループ(20テーマ)の研究活動が行われ、関東3グループ(「IT部門のあるべき監査対応に向けて～あわてない!いつもの仕事を監査に活かそう～」)が最優秀賞およびエッカート賞※を受賞されました。

※ エッカート賞: コンピュータの生みの親として著名なエッカート博士にちなみ、毎年、論文、グループ研究報告などのなかで、とくに優れたものに対して贈られる賞

会員さまからのメッセージ

研究活動を通じて得られた多くのもの

このたびは最優秀賞ならびにエッカート賞という栄えある賞をいただき、誠にありがとうございました。

ITの領域においては内部統制対応など、統制の整備と運用、監査への対応がより重要度を増していますが、監査への理解不足から十分な準備や円滑な対応ができていないことも多いのではないのでしょうか。今回の研究では、被監査部門であるIT部門自らが、いかに有効な統制を整備・運用し、それを第三者からの評価に耐えるものとするかをテーマに取り上

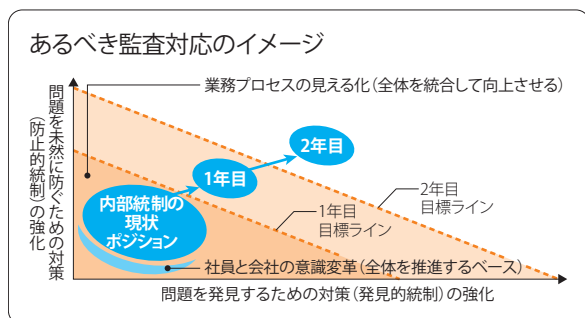
げましたが、この研究成果としてまとめたアプローチやワークシートが、監査対応に取り組まれる多くの方々の参考になればと期待しています。

我々参加メンバーにとって、このユニシス研究会での研究活動の成果はテーマに対する理解を深めたことだけではありません。さまざまな業種や立場のメンバーが集まり、同じ目標に向かって最後まであきらめずに活動し、一つのものを作り上げる。この素晴らしさを共有できたことは、メンバーそれぞれが今後仕事をするうえで必ずや大きな糧になるでしょう。また、活動後もさまざまなシーンで語り合える仲間になることもできました。

このような機会を与えてくださったユニシス研究会とアドバイザーの戸木さんに深く感謝申し上げます。



最優秀賞/エッカート賞受賞
関東3グループ
フコク情報システム株式会社
向井 亮 様



担当テクニカル・アドバイザーから

“新しい価値”を生み出す、一体感のある活動

関東3グループのみなさま、最優秀賞およびエッカート賞の受賞おめでとうございます。担当テクニカル・アドバイザー(以下、TA)として、心より誇りに思います。

私もTAは、活動テーマ領域におけるプロフェッショナルとして、研究会を適切なゴールへ導くミッションを与えられています。しかし、そのゴールは事前に決まっているのではなく、メンバーの経験、志向などを融合し活性化させながら、“新しい価値”を生み出していくことなのです。私たちTAは、そのゴールに至るまでの羅針盤として、また、ポート競技のコックスのごとく、クルーを引き締め、盛り上げる役割も担っています。

日々の研究会活動のモチベーションを高めるために、ま

ず、メンバーの得意分野を迅速に察知し、それを語っていただくこと、さらに、メンバー自らが深く考え、熱く議論する機会をつくるのが大切です。そのような運営を進めていくためには、TA自身も日々研鑽し、努力を重ねていかねばなりません。

このように研究会活動は、参加メンバーとTAが一体となり、組織の枠組みを越え、熱く議論し、自らを成長させることができる素晴らしい活動です。これからも、多くのみなさまのご参加をお待ちしております。



日本ユニシス
ICTサービス本部
サービス企画室
セキュリティグループ
戸木 貞晴